


ユダヤ教では「父親は息子にトーラー（律法）を教え、仕事を教え、水泳を教えよ」と言っている。トーラーとは旧約聖書の最初の五書（創世記、出エジプト記、レビ記、民数記、申命記）のことである。ユダヤ人にとって聖書の勉強は永遠の命を手に入れるための絶対条件である。仕事は生活の糧を手に入れ、人生をまとうするために不可欠である。水泳はまさかのときに溺れ死にしないようにする為の技術である。ようするに、父親は子どもに、精神的にも、生活的にも、肉体的にも命を全うする方法を教えなければならない。自分が直接伝授するか、もしくは、それを教えてくれる教師を見つけなければならない。だから、ユダヤ人にとって良い学校とは、進学率が高いかどうかではなく、子供を勉強好きにしてくれるか、あるいは子どもの特性をうまく引き出して、自分の得意な分野を発見させてくれるように誘導できる教師がいる学校か、そのいずれかである。

ユダヤ人の世界でも、教会に通う比率は減少してきている。しかし、ニューヨーク日本人学校にいたシュワルツ先生は高校の途中から大学にかけて教会に行かなくなったが、結婚して子供が出来たとき、また教会に行くようになった。教会で読まれるタルムードが、子供を教育するのに、ユダヤ人としての文化観を確認させてくれるからと話されていた。また、実際に教会にいなくても、彼らの会話の中に、しばしばタルムード（ユダヤ教の律法とその解説を収めた書物）のことばが引用される。3千年を超える民族の血と汗の中から、生まれたことばは単なることばではなく確固とした文化になっているのです。

ここで使っている文化ということばは鈴木孝夫（慶大）先生の説を拝借しました。「文化とは、人間の行動を支配する諸原理の中から本能的で生得的なものを除いた残りの、伝承性の強い社会的強制（慣習）の部分をさす概念をいう」。



張江 幸男（はりえ ゆきお）
海外・帰国子女教育専門機関 JOBA 顧問
前全日本空輸（株）海外子女教育相談室長、元三菱商事（株）相談室長、元ニューヨーク日本人学校校長、元台北日本人学校教頭

海外・帰国子女教育専門機関 JOBA
〒145-0064 東京都大田区上池台3-39-9
Tel:03-5754-2240 Fax:03-5754-2241
<http://www.jolnet.com/>

③ 日本人の文化観

よく日本人は世界で一番無宗教の人種だといわれます。しかし、自分の生い立ちも含めて、宗教的な情操は日常的に教育を受けています。

1、神道 まず神道の考え方。人間も動植物も循環する自然の中で生まれ、生き、死に、また再生して、生命は永遠に循環するという考え方で生きてきました。そして、その自然の中で、特に優れたものを神として敬ってきました。これが日本古来の宗教の神道です。特別に神秘的で美しい山や滝、巨木、優れた人間も神様として敬われ、祭られました。ことばさえも「言霊（ことだま）」と呼ばれ崇められています。古代では、言葉に宿っている不思議な靈感によって、言葉通りの事象がもたらされると信じられておりました。

2、仏教 ところが、インドで生まれた仏教も6世紀頃より優れた宗教として受け入れてきました。「神様、仏様」としてともに信仰されてきました。仏教も日本人古来の考え方を反映して、すべての生きるものは、木も草も動物も人間もあるがままに成仏できる、という考えも生まれました。さらにそれは命のあるものだけではなく、例えば日常大事に使っている道具が壊れ使えなくなった時に仏様の前で供養する（針供養・筆供養など）という風習もうまれました。


いまでも、子どもがいたずらをしたり、ものを壊し、生き物をいじめたりすると「仏様（または神様）のバチが当たるよ」といって叱ることがあります。日本人の心の根底には、神様、仏様、そして亡くなった肉親など家族の御先祖様が、何時も身近で見えているという感覚があります。

3、儒教 日本にはもう一つ社会道徳に大きな影響を与えた儒教があります。これは、宗教とはいえなく、「指導理念」「道徳理念」と考えられています。孔孟の教えとして3世紀の後半に入ってきていますが、武士から始まり、庶民にまで広がったのは江戸時代です。武士は藩校。庶民は寺子屋を通して広がっていきました。

4、キリスト教 16世紀に入ってきましたが、明治維新以後広がりをみせ、第2次世界大戦以後にはキリスト教文化が、社会風俗になじんできました。

考えてみると日本人文化観の中には、このようにいくつもの宗教の良いところ取りをしたものが入っているのかもしれませんが。社会生活の中で皮膚からにじむようになってくる文化観もありますが、日本人はとくに読書から入ってきた文化観が大きいのでしょうか。しかも、幼児から始まる絵本の読み聞かせは、親の100%が実践していると考えられます。どこの教会の影響よりも、日本の親の読み聞かせの影響の方が大きいと推測しております。

次回はその絵本のことを考えてみましょう



海外・帰国子女教育の大先輩、張江先生の2回目の寄稿です。家庭での言葉の教育は、保護者の心「文化観」が大きな力を持っているとの話です。賛成です。
先生ご自身の派遣教員としての海外駐在経験を通しての、ユダヤ人の考え方や文化、特に宗教の興味深い例が紹介されています。
さらに、日本人の宗教についても触れています。日本人は「無宗教」か、それとも「良いところ取り宗教」か、面白いテーマです。